

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅱ	対象学年・時期	2年・前期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・15時間
授業概要	地域・在宅看護の対象は地域・在宅で暮らす療養者とその家族である。看護師には対象の生活や思いを理解し、必要な医療やケアを生活になじませ、自立を支援するための介入が必要となる。 本科目では、地域・在宅で暮らす人々中心の看護介入をするために必要な基本的な理念や倫理を学ぶ。また、対象がＱＯＬ(生活の質)についての意思に沿って暮らせるために必要な看護介入や時期に応じた援助を考える力を身につける。		
授業形態	講義、グループワーク、ロールプレイ		
学習目標	1. 地域・在宅看護に関わる理論とその活用が理解できる 2. 地域・在宅看護における倫理的な看護活動が理解できる 3. 地域・在宅看護における看護介入期の看護の特徴と援助が理解できる		
授業計画	＜事前・事後学習＞		
	1回目：地域・在宅看護に関わる理論と活用 ①	事前学習： セルフケア、エンパワメント、自己効力、ストレングス、ヘルスビリーフモデル、行動変容のステージモデル、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、アドボカシー、パートナーシップ	
	2回目：地域・在宅看護に関わる理論と活用 ② 地域・在宅看護における倫理		
	3回目：地域・在宅看護における倫理		
	4回目：地域・在宅における時期別の看護(介入期の特徴) 在宅療養準備期(退院前)と移行期の看護、 在宅療養安定期の看護、急性増悪期の看護、 終末期の看護		
	5回目：各介入期における看護 準備期・移行期 安定期 急性増悪期	※グループワーク	
	6・7回目：各介入期における看護 準備期・移行期 安定期 急性増悪期  まとめ	ロールプレイ	
	8回目：終講試験		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 第6版 河原加代子(著) 医学書院		
事前学習・事後学習 (学習を促進できる学修)	上記「学習内容」に加え、当該箇所をテキストで読み授業に臨んでください。 成人看護学概論での学習内容を活用しましょう。 その他の事前学習は必要時授業中にお伝えします。		
評価基準と評価方法	筆記試験		
備考			